

# 1. 兵役

(※ 関連資料のある箇所は太字で示してあります。)

## 4. スマランの予備士官学校

【木 田】それから、しばらくして私はジャワ島へ行ったのです。ジャカルタに上陸をして、ジャカルタから汽車に乗せられて、スラバヤの方へ向かって、ちょうど島の真ん中辺まで行ったところにスマランという街がありまして、そこへ南方軍の幹部候補生の学校をつくってあったもんですから、久留米の予備士官学校と、スマランの予備士官学校で、5~6ヶ月ぐらいの訓練を受けたのでした。まあ何と申しますか、軍隊におりますから、現地の人とそう生に接触をするという機会があったわけではないんですけども、ジャワ島におるときには、これも非常にこう、青年たちと話をしても、お互いの信頼関係が作りやすい。そしてオランダからのインドネシアの独立という仕事を日本の当局の人たちは一生懸命援助したわけですから、現地の青年たちというのも非常に好感を持って我々と接触をしているという感じがいたしました。ですから戦時中、フィリピンでは、ああ難しい人がいるなあと思ったんですけども、シンガポールと、それからジャワ島ではですね、ああこういう人であれば、十分いろんなことが一緒にできるなあという感じを持ったんです。

と同時に、ジャワ島なんていうのは立派な道路がずうっと走ってしまっていてね、鉄道も冷房車が走っているわけですから、日本よりはよほど技術的に進んでいるんじゃないかという感じがいたしました。なるほど、威張ってばかりおれんなあというのが私の印象でした。そこからちょっと飛びますが、ジャワで私はいい印象を持っていたもんですから、たまたま教育研究所長をやっているときに、数学の国際比較とか、理科の国際比較ということで、各国の研究者などとおつき合いがあって、オランダでその役員会があって話を聞いておりましたらね、皆さん夏休みにジャワ島へ行くのを楽しみにしておられるんですよ。そして、今年はこちらへ行って、こうだあだということをしやべっておられる。僕はつい忘れてしまっていたもんですから、うっかり、いやあせっかくそこまで行くんだったら日本へ来たらいいじゃないですかと言ったら、いや日本へは行かんとかいって、これはしまったと思ったのです。

オランダは日本に一番の宝物を取られちゃったわけですからね。あっこれはしょうがないなあと思ったんですが。やっぱり歴史の流れというのは、そういういろんな思い出を残してくれると思います。ジャカルタに上陸をして、山手線のような鉄道がどんどん回っていますしね、それからクーラーのついた列車でもって運ばれたということなんかも印象に残っているんですが、しかし当時スマランという街にその部隊が駐屯して訓練をしました。やっぱり蚊にやられるんですね。夜間演習なんかやっていると、かゆいと思ってこうやると、砂がザラザラザラザラと首にくっついたほど蚊が群がっていましたね。ですから、南方へ行かれた方はマラリアに、敵の弾よりはマラリアによけいやられるなあと思ったんです。ところが不思議なことに、私は第3乙で、普通なら召集にもならんところだったんですが、マラリアにならなかつたんですよ、南方へ行って。それで、これはどういうわけですかね、元気にしていました。